Jump to the World
（世界に跳び出せ）



（財）日本ハンドボール協会会長　渡邊　佳英

昨年度、全日本女子は12月にロシアにて開催されました第17回世界女子ハンドボール選手権大会において24チーム中18位と振るわず、また全日本男子においても2月にタイにて開催されました2007年男子世界選手権アジア予選である第12回男子アジア選手権で5位に終わり、前回（ドーハ大会）4大会振りに獲得した念願の世界選手権出場権を僅か2年のうちに失う事になりました。これが現在の日本ハンドボール界の実力であり、また日本ハンドボール協会の総合力の表れでもあると痛感しております。

そこで本年度、日本ハンドボール協会は、普及・強化・自立すべてにおいて大きく世界に跳び出す年にと願いを込め、スローガンに**「Jump to the World（世界に跳び出せ）」**とかかげました。このスローガンのもと、「プロジェクト21」の目標である

1．2010年にハンドボール人口を日本で全スポーツ競技の3位に、そして小学校チームを育成する
2．オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力をつける
3．日本ハンドボール協会が人、物、金で自立できる体制にする

を達成すべく、鋭意邁進努力して参ります。

直近の目標としては、来年度は北京オリンピックのアジア予選が開催される年であります。男女ナショナルチームが、そろって予選を突破し、北京オリンピックにおいて輝かしい成績を収めることができるよう、日本ハンドボール協会としても最大限バックアップして参ります。

長期的にみると、ハンドボールが飛躍し続けていくために、

1．ハンドボール競技とはどういった競技なのかを世間に周知していくこと
2．「がんばれ10万人会サポート会」といったようにサポーターを含め、ハンドボールに関わる人口を増やしていくこと
3．「ジュニア3000プロジェクト」といった競技者人口を増やしていくこと
4．「NTS（ナショナルトレーニングシステム）」といった競技者の育成と同時に指導者、レフェリーの育成
5．育成から強化へ

上記すべてが良い結果を生み出すことにより、スポンサー企業様の増加＝収益確保にもつながると考えます。これらシステムは整備されつつありますが、さらに効率よく運営して普及を促進するためにも、皆様の幅広いご支援を賜りますようあらためてお願い申し上げます。

第17回女子世界選手権大会

残念ながら予選リーグ敗退
—大型選手の育成こそ最大の課題

選手団長　山下　泉［(財) 日本ハンドボール協会副会長］



ネヴァ川と幾すじもの運河のはしる「水の都」サンクトペテルブルグ（ロシア）において、昨年12月5日から18日まで開催された「第17回女子世界ハンドボール選手権大会」に団長として参加した。私自身、1995年のオーストリア・ハンガリー共同開催から5大会ぶりの世界大会であった。

予選リーグAグループに属す日本は地元ロシア、オランダ、クロアチア、中国、ウルグアイの6ヶ国と戦った。試合前にプログラムの各国選手リストを眺めて大きなショックを受けた。参加24ヶ国の中で日本が最も体格が劣っていたからだ。「世界」は急速に大型化が進み、しかも絶え間なくスピードプレイを選択していたのだ。

日本の平均身長は167cm、体重62kgに対し、優勝したロシアは男子並みの182cm、73kg。アジア勢ではライバルの韓国が174cm、69kg。2008年北京五輪を目指し強化が進んでいる中国は、178cm、71kgと欧米並みの選手を揃えていた。

初戦の中国戦は出足で勢いをつける為の重要な試合である。前半好調な出足を見せ4点リード、後半に入り体力の消耗からペースダウンし、6点差をつけられ逆転負けした。気力を振り絞り、気迫に満ちた高度のテクニックとスピードで対抗したが、究極的には体力差が勝敗を分けた。第2戦のクロアチアは前半欧州の強豪に3点差をつけリードで終えたが後半5分で同点とされ、終盤まで一進一退の緊迫した厳しい戦いとなったが結局1点差の負け。ウルグアイにダブルスコアで完勝するも、オランダ、ロシア戦とも勝機なく敗退した。結果は1勝4敗で予選で敗退、18位で帰国（12日）を余儀なくされた。



写真提供：スポーツイベント社

バウワー監督の就任後の初めての国際公式試合であり、ヨーロッパを知り尽くした戦術、リーダーシップに大変な期待を抱いての大会であった。緻密な戦術を駆使し、クレバーな采配と前向きなエネルギーで、小柄な日本選手を使いきっていた。選手の頑張りも賞賛に値するゲーム展開をした。しかしながら体格差はテクニックやスピードだけでカバーするのも限界であり、終盤には運動量が低下し苦戦をしいられた。

この大会はトヨタ自動車のスポンサーで参加し、ユニホームに「TOYOTA」のロゴを入れて出場した。サンクトペテルブルグ市長主催のレセプションにおいて、市長はIHF会長、参加24ヶ国の団長の前で当地にトヨタ自動車が進出し、現在工場建設中であると誇らしげに披露された。日本にとって非常に喜ばしい出来事であった。

そして日本総領事館に木野常務理事と表敬訪問をした。城所総領事には部下をつれて2度も応援に駆付けてくださり選手も大きな勇気を戴きました。また、中国、韓国の団長と渡辺会長も加わり、東アジア連盟の会議を持つことができ、有意義な大会であった。

予選リーグ敗退という現実は真摯に受止め、反省しなければならない。団長としても大きな責任を感じている。選んだ選手は果たしてベストであったか、海外組の体力不足は情報入手していたが、監督とコーチのコミュニケーションは十分であったか、これらの課題を分析し次のステップにしなければならない。ハンドボールに限らず日本の球技は、世界に適応する大型選手発掘に血まなこになっている。大型選手の育成こそ強化の最大のテーマであることをこの大会を通して痛感した。

中学、高校の部長さんにお願いすることは、先ず新入生を大型プレイヤーとして期待出来る人材を野球、サッカー、バレー、バスケなどに入部する前に説得、勧誘し、取囲んでほしい。そして、自分の手で日の丸を背負ってプレイする選手を育てることがどれだけハンドボール界に貢献することになるか自覚して欲しい。結局は負けても傷をなめ合って終っている現状の強化体制から一日も早く脱皮しなければ希望の光は見えないものと思料される。反省される大会であった。

世界選手権大会を終えて



コーチ　荷川取 義浩 [北國銀行]

ベルト・バウワー監督指揮の元、初めて迎える世界選手権、直前の大阪合宿・デンマーク合宿では、確かな手ごたえを感じながら、戦いの地ロシアに乗り込み、チーム一丸となり最高の成績を残せるよう臨んだ。

ロシア（サンクトペテルブルグ）は、思ったより寒くなく（といっても、－5℃程度でしたが）、そして綺麗な町並みであった。

緊張の開幕戦、最高のスタートを切った日本、田中（美）の好アシスト・シュートで、快調に得点を重ねる一方、守っては、気迫溢れるDF陣の頑張りがGK田中（麻）の好セーブにつながり、18対14の4点リードした形で、前半を終了。

後半に入り、積極的に仕掛けてきた中国に対し、連続失点を許し逆転されるが,水野の速攻などで再び同点に追いつく。しかし、中国の勢いを止めることができず、27対33で初戦を落とした。

予選リーグ突破には、どうしても勝っておきたいクロアチア戦、小松の連続速攻で幕を開けた。GK飛田の再三のファインプレーでリズムをつかみ、負けじとGK浅井が、2本連続で7mスローを止めて、チームに勢いをつける。これに応えるかのようにCP陣が次々と得点して、結局14対11で前半を終えた。

前日の反省点である後半の立ち上り、再確認をして臨んだが、7連続失点で活かすことができなかった。しかし、ここから踏ん張りをみせる、大前の速攻、佐久川のサイド・佐久川から田中（美）に渡るスカイプレーで同点に持ち込む。残り13分間は、一進一退を繰り返しものの1点が届かず、30対31でタイムアップ。

2敗と後のない中で迎えた第3戦のウルグアイ戦、自力に勝る日本が終始リードを保ち、44対22で完勝、世界選手権初勝利をあげた。

1日の休養日を挟んで第4戦のオランダ戦、2次リーグ進出には負けられない1戦であったが、坂元のポストシュートで幸先良くスタート。このまま波に乗っていきたかったが、ミスからの速攻などで連続失点を浴び、13対19と6点リードを許して前半を終了。



写真提供：スポーツイベント社

後半に入り、樋口・大前などの頑張りで互角に展開したものの、前半のアヘッドが大きく、27対35で終了し、2次リーグ進出を逃した。

最終戦はリーグ最強の地元ロシア戦、前半は相手の大きさに圧倒された形でミスを連発し、速攻を許し、8対17で終えた。後半に入ると徐々に日本らしさを発揮し、後半だけは16対17の1点差のゲームができた。（トータル24対34）

予選リーグを1勝4敗で終え、全日程を終了。2次リーグに進出し、上位進出を目標に頑張ったが、残念ながら叶わなかった。しかし、選手達は、最後まで全力で戦ってくれた。

この経験を今後に活かせるよう、より一層精進していきたいと思う。

最後になりましたが、合宿等でお世話になった関係者、選手の所属先の皆様方、また、全国のハンドボールファンの皆様方、そして、チームの活動のために全力でサポートしていただいた日本ハンドボール協会の皆様方に心から御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬ、ご理解・ご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

選手団名簿

	氏名	所属先
団長	山下　泉	日本ハンドボール協会
副団長	蒲生　晴明	日本ハンドボール協会
監督	ベルト・バウワー	日本ハンドボール協会
コーチ	荷川取　義浩	日本ハンドボール協会
コーチ	山田　永子	日本ハンドボール協会
総務	木野　実	日本ハンドボール協会
分析サポート	藤本　元	日本ハンドボール協会
ドクター	佐久間　克彦	熊本赤十字病院
トレーナー	倉田　忠司	㈲トータルヘルスコンディショニング

		氏名	所属先
GK	1	田中　麻美	北國銀行
	12	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州
	16	浅井　友可里	広島メイプルレッズ
CP	2	東濱　裕子	オムロン
	3	小松　真理子	イエイダ（スペイン）
	4	樋口　真央	筑波大学
	5	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州
	6	武井　夏紀	北國銀行
	7	金城　晶子	ソニーセミコンダクタ九州
	8	佐久川　ひとみ	オムロン
	9	坂元　智子	オムロン
	10	中村　尚美	北國銀行
	11	早船　愛子	GOG（デンマーク）
	13	水野　恵子	オムロン
	14	大前　典子	広島メイプルレッズ
	15	谷口　尚代	北國銀行



写真提供：スポーツイベント社

試合結果

◆第1日目（12月5日（月））
〈A組〉
オランダ　29（17－11、12－16）27　クロアチア
ロシア　43（25－8、18－8）16　ウルグアイ

中国　33（14－18、19－9）27　日本

【戦評】第17回世界選手権開幕。初戦の相手は中国、先制したのは日本。坂元のポストでゲームがスタート。序盤田中(美)の好アシスト、また、自らのカットイン、金城・早船のロングなどで20分には10対8とリード、一度は追いつかれたが、坂元、早船、田中（美）の3連取で再びリードし18対14で前半を終了。

後半立ち上がりから積極的になった中国に対し、受けに回り5連続を含んで、8分には20対22と逆転を許したが、水野・田中（美）が打ち込み再び同点とした。しかし、そこから7連続ゴールされ苦しくなる。小松・田中（美）らで得点、進撃したが及ばず、27対33で初戦を落とした。明日以降の試合で巻き返しを図りたい。

〔得点者〕田中美9、坂元・早船・金城4、水野・小松2、大前・谷口1

◆第2日（12月6日（火））
〈A組〉
オランダ　29（17－4、12－4）8　ウルグアイ
ロシア　36（16－9、20－11）20　中国

クロアチア　31（11－14、20－16）30　日本

【戦評】小松の2連続の速攻で幕を開けた第2戦（対クロアチア）。前半は速攻、ロング、パラレル攻撃からポスト、カットインと4本の7mスロー、多彩なシュートで得点。守っては飛田が再三のファインセーブ、負けじと浅井が2本連続で7mスローを阻止し14対11で前半を折り返した。昨日同様に後半の立ち上がりに7連続失点で逆に4点リードされた。しかし、途中出場の大前の速攻、佐久川のサイドシュート佐久川からの田中（美）への鮮やかなスカイプレーも決まり残り13分同点に追いつく。その直後に2連続失点しリードを許す。そこからは一進一退を繰り返し、残り1秒で田中（美）が決めたが、そこでタイムアップ。30対31。予選リーグ残り3試合、試合結果を求めたい。

〔得点者〕田中美8、金城・小松4、佐久川・大前・早船3、坂元・中村2、水野1

◆第3日（12月7日（水））
〈A組〉

日本　44（24－10、20－12）22　ウルグアイ

【戦評】ゆっくりとしたボール回しからポスト中心に攻めるウルグアイに対し、足が止まり、10分までは7対6のシーソーゲーム。ここから金城のロングから谷口のポストシュートまでの9連取で抜け出す。前半終了間際に3連取して、24－10で終了。

後半に入り樋口、東濱の若手コンビに大前の速攻がよく決まり一方的な展開となった。最後は実力の差が出た形で44－22で終了。今大会初勝利をあげた勢いで予選リーグ残りオランダ、ロシア戦を乗り越えたい。

〔得点者〕佐久川・田中美・大前6、谷口5、坂元・金城4、水野・東濱・中村・樋口3、小松1

ロシア　34（16－10、18－12）22　オランダ
クロアチア　35（18－16、17－13）29　中国

◆第4日（12月9日（金））
〈A組〉

オランダ　35（19－13、16－14）27　日本

【戦評】2次リーグ進出には負けられない1戦。その緊張から

か坂元のポストで先制したものの、その後５連続失点で主導権を握られる。ディフェンスから立て直しを図りたかったが、前半だけで３連続失点が３度あり、どうしてもペースを掴めず、13－19で前半を終了。

後半に入ってもなかなか点差を縮めきれず、相手優位は変わらなかったが、しかし樋口のフェイントからのカットイン、大前の速攻など持ち味を発揮。後半だけ見ると互角の戦いができただけに、前半のアヘッドが大き過ぎた。２次リーグ進出はならなかったが、最終のロシア戦を納得いく内容にしたい。

〔得点者〕田中美・金城５、坂元４、樋口３、
佐久川・水野・大前・小松２、中村・谷口１

ロ シ ア 29（18－16、11－12）28 クロアチア
中 国 45（24－ 7、21－11）18 ウルグアイ

◆第５日（12月10日（土））
〈A組〉
オランダ 30（14－16、16－11）27 中 国

ロシア 34（17－8、17－16）24 日 本

※日本、A組５位。予選ラウンド敗退

【戦評】２次リーグ進出は無くなったものの超大型チームのロシア相手にどこまで自分達のプレーができるかをテーマに臨んだゲーム。

前半、相手の大きさに戸惑い、思い切った攻めができず、ミスからの失点を重ねたが、後半に入ると徐々に日本らしさを見せた攻撃を展開。坂元、谷口のポスト陣が体を張ったプレーで次々と7mスローを獲得。全員が何とか得点をという気持ちが相手の反則を誘い、合計16本の7mスローを得て、11本のゴールを生み、後半だけでは、１点差のゲームであった。

今大会は残念ながら２次リーグ進出、上位進出とは行かなかったが、この経験を今後につなげていきたい。

〔得点者〕金城７、佐久川６、中村３、大前・谷口２、
坂元・水野・早船・樋口１

クロアチア 44（20－ 3、24－ 6） 9 ウルグアイ

◆予選リーグ順位
【Aグループ】①ロシア ②オランダ ③クロアチア ④中国 ⑤日本 ⑥ウルグアイ
【Bグループ】①ハンガリー ②韓国 ③ノルウェー ④スロベニア ⑤アンゴラ ⑥オーストラリア
【Cグループ】①デンマーク ②ドイツ ③ブラジル ④オーストリア ⑤ポーランド ⑥コートジボアール
【Dグループ】①ルーマニア ②ウクライナ ③フランス ④マケドニア ⑤アルゼンチン ⑥カメルーン

◆第６日（12月12日（月））
〈Ⅰ組〉
ハンガリー 27（16－13、11－13）26 クロアチア
ロ シ ア 32（17－13、15－14）27 韓 国
オランダ 30（16－12、14－18）30 ノルウェー
〈Ⅱ組〉



写真提供：スポーツイベント社

ド イ ツ 32（18－13、14－13）26 フランス
ルーマニア 35（17－15、18－18）33 ブラジル
デンマーク 28（13－17、15－11）28 ウクライナ

◆第７日（12月13日（火））
〈Ⅰ組〉
韓 国 38（20－19、18－15）34 クロアチア
ハンガリー 37（21－16、16－14）27 オランダ
ロ シ ア 26（12－11、14－11）22 ノルウェー
〈Ⅱ組〉
ルーマニア 37（20－14、17－12）26 ド イ ツ
ブラジル 33（16－17、17－15）32 ウクライナ
デンマーク 22（11－10、11－ 9）19 フランス

◆第８日（12月15日（木））
〈Ⅰ組〉
オランダ 29（16－14、13－12）26 韓 国
ロ シ ア 35（15－17、20－16）33 ハンガリー
ノルウェー 37（18－12、19－13）25 クロアチア
【Ⅰ組順位】①ロシア ②ハンガリー ③オランダ ④韓国 ⑤ノルウェー ⑥クロアチア
〈Ⅱ組〉
ブラジル 35（19－14、16－ 9）23 フランス
ド イ ツ 29（16－15、13－11）26 ウクライナ
ルーマニア 33（16－13、17－16）29 デンマーク
【Ⅱ組順位】①ルーマニア ②デンマーク ③ドイツ ④ブラジル ⑤ウクライナ ⑥フランス

◆第９日（12月17日（土））
〈7－8位決定戦〉
ブラジル 29（15－14、14－14）28 韓 国
〈準決勝〉
ロ シ ア 31（16－ 9、15－15）24 デンマーク
ルーマニア 26（15－14、11－10）24 ハンガリー

◆第10日（12月18日（日））
〈5－6位決定戦〉
オランダ 28（17－12、11－14）26 ド イ ツ
〈3－4位決定戦〉
ハンガリー 27（14－15、13－ 9）24 デンマーク
〈決勝〉
ロ シ ア 28（17－12、11－11）23 ルーマニア



写真提供：スポーツイベント社

第12回男子アジア選手権大会兼世界選手権アジア予選

大会報告：第５位、残念ながら世界選手権大会の出場権獲得ならず



団　長　**蒲生晴明**［(財)日本ハンドボール協会常務理事］

2年前のカタールで開催されました第11回アジア選手権大会では、男子代表チームが4大会振りの世界選手権出場を獲得しました。今回は、連続出場を目標に挑みましたが、予選リーグ1勝2敗で3位となり、準決勝に進むことができず、5－6位決定戦でバーレーンに勝利して第5位でした。ハンドボールファンならびに協会関係各位の期待に応えられなかったことは残念に思います。しかしながら、悲願でありますオリンピック出場を果たすべく最善の努力は、今後も継続していかなければなりません。

大会の概要について、以下に報告します。

1．開催期間

2006年2月12日（日）～21日（火）

2．開催国・開催都市

タイ：バンコク

当初中国での開催が決まっていたにもかかわらず、12月になって突然、タイ：バンコクに変更となりました。中国とアジアハンドボール連盟（AHF＝会長、事務局はクウェート）との間にトラブルがあったと聞きましたが、アジアのハンドボール情勢は、常に混乱がある状況です。

3．出場国

参加国は当初、日本・韓国・中国・バーレーン・クウェート・カタール・イラン・ヨルダン・サウジアラビア・タイの10カ国でしたが、大会直前に、サウジアラビアがキャンセルしました。また、ヨルダンは大会エントリー締切り後に受理されているようです。タイ組織委員会関係者は政治的な事が理由と言っていましたが、スケジュール変更・運営見直し・ホテルキャンセルなどその対応に苦慮していました。そういった意味で、今後は、開催国と参加国との国交や友好関係は事前に調査しておく必要があります。

選手団名簿

役　職	氏　名	所属先名
日本協会代表	市原　則之	(財)日本ハンドボール協会
団　長	蒲生　晴明	(財)日本ハンドボール協会
監　督	松井　幸嗣	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	冨本　栄次	(財)日本ハンドボール協会
分析サポート	岡本　大	(財)日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	産業医科大学
トレーナー	永井　正之	ながい接骨院

		氏　名	所属先
GK	1	坪根　敏宏	湧永製薬
	12	高木　尚	大同特殊鋼
CP	2	松林　克明	大同特殊鋼
	4	豊田　賢治	大崎電気
	5	前田　誠一	大崎電気
	6	東　慶一	湧永製薬
	7	宮崎　大輔	大崎電気
	8	末松　誠	大同特殊鋼
	9	永島　英明	大崎電気
	11	中川　善雄	大崎電気
	13	羽賀　太一	ホンダ
	14	香川　将之	トヨタ車体
	15	猪妻　正活	大崎電気
	17	村上　秀行	トヨタ紡織九州
	19	東　俊介	大崎電気
	20	田場　裕也	ニーム







3点とも写真提供：スポーツイベント社

4．結果と評価

1位：クウェート、2位：韓国、3位：カタール、4位：イラン、5位:日本、6位:バーレーン、7位:ヨルダン、8位:中国、9位：タイ

この結果、上位3カ国が来年ドイツで開催される世界選手権出場権を獲得しました。

日本チームは、初戦のイラン戦の敗戦が非常に痛かったと考えられます。4試合の結果から考えるとその要因はディフェンス力です。粘り強く守っているのですが、「守って、守って」最後に退場になったり、押し込まれたりなど、守りきれない場面が、多かったように思われます。アジア各国は大型選手の発掘育成が進んでいて、体格体力を活かしながら押し込んでくるコンタクトプレイをしてきます。日本代表選手についても、現状より大型化を進めないと失点を防ぐ確率が低下するように思われます。しかしながら､勝負は僅差です。要因をしっかり分析しオリンピック予選までにクリアにしていく所存です。

また、初戦でアラブのレフェリーの不可解な判定（日本国内ではとられない判定：ボールがない側で、サイドラインを踏んだラインクロスなど）に対して、対応が遅れたこととレフェリーに対して神経質になったことも敗れた要因と考えられます。現場の強化は、当然ながら猛省して進めていかなければなりませんが、運営やレフェリーなどのゲームを取り仕切るところに対して、何らかのアクションを起こしていかなければなりません。ハンドボールを「世界のスポーツ、フェアなスポーツ、ダイナミックでスピーディーなスポーツ」として発展させていくために、日本ハンドボール協会のセクションを超えた協力体制と具体的なアクションを国際ハンドボール連盟（IHF）に提案していく所存です。

5．大会運営等の現状および課題

開会式には、タイのスポーツ観光大臣を招き、今後のハンドボール競技発展を進めて行こうとする姿が見えました。AHFからは、会長や専務理事などの主要ポスト役員は来ませんでした。そのため、イランの会長（AHF副会長）がチェアマンになっていましたが、特に影響力はありませんでした。

タイハンドボール協会の会長は行政の官僚で、東南アジア連盟10カ国をまとめようとしています。そういった意味で、日本は東南アジア連盟に対して協力支援体制をとっていく必要があると考えられます。タイは､中東アジア諸国に対して､



写真提供：スポーツイベント社

好意を持って対応しているようではないので、色々な意味で協力関係を築いていく必要を感じます。5年・10年・20年後に、AHF事務局を、日本に設置する？ためには絶対的な条件を満たさなければ変化は求められません。

ゲームホールは、昨年6月のアジアユース選手権大会と同じホールで、各チーム1台のバスで移動対応していました。ホールはスポーツコートを採用していましたが、スリップ転倒が相次ぎ、選手には不人気でした。移動について、バンコク市内は、車が多く渋滞は通常化していて、余裕を持って移動する必要がありました。通訳兼チーム係りは、大学生アルバイトが実施していました。

試合は、サウジアラビアの突然の不参加によって、予選リーグは参加9カ国（A組5チーム、B組4チーム）にもかかわらず一日2～3試合を実施していくような変則スケジュールになってしまいました。これによって日本代表チーム（B組）は、7日間で3試合と余裕があるもののモチベーションをキープしていく必要がありました。逆に、韓国は4日連続の試合となっていました。こういったスケジュール管理・試合の運営について、クウェートのAHF役員が全てを仕切っていました。

また、アジアからAHFがノミネートしたレフェリーが7ペア参加しましたが、東側は韓国のみでした。日本と中国のレフェリーは、ノミネートされましたが諸般の都合で参加できず、その代わりに中東諸国からAHFが選出してきました。アジアのジャッジメントは、世界の状況とはアンマッチで、遅いテンポの判定でした。したがって、先行して逃げ切ることが容易であって、競技としての醍醐味やダイナミックさ・スピーディさは、全く感じられませんでした。日本国内では、アップテンポのゲーム展開が功を奏して、大変見応えが感じられますが、それがなく観客も極少数で盛り上がりません。

前回の教訓から、IHFのPRCメンバーであるマンフレッド・プラウゼ氏（ドイツ）が視察に来ていました。われわれ日本選手団役員は、何度も状況を説明し理解を求めました。プラウゼ氏も、このような状況があることを充分に認識しましたし、かなりの問題であると憤慨していました。大会のレポートと映像を添えて、IHFに報告することをお願いしましたし、当然報告書が提出されると考えます。日本からも、IHFに改善要望書を提出する必要があると思います。また、4月に京都で開催される東アジアクラブ選手権において、韓国・中国とともに東アジア連盟として、IHFに改善要望書を提出すべきと考えます。今後は、オリンピックや世界選手権大会などIHFに関係する世界規模の大会の大陸予選大会には、組織委員会役員とレフェリーは、IHFが別の大陸から責任を持って派遣して、全責任を持って管理運営するように改善要望を提出したいと考えます。

終わりになりましたが、国内強化合宿・スペイン遠征などにご支援いただきました役員選手ならびに所属の関係の皆様方にお礼申し上げ、応援していただきました全国のハンドボールファンならびに関係の皆様に深く感謝申し上げます。



写真提供：スポーツイベント社

第12回男子アジア選手権（兼2007年世界選手権予選）に参加して



東　俊介［大崎電気］

私たち日本代表男子チームは2月12日から21日までタイ・バンコクにおいて開催された第12回アジア選手権に参加してきました。私たちはこの大会に向け、6月の大崎電気体育館での合宿を皮切りに紋別・広島合宿を経て7月末の広島国際大会、1月のスペイン遠征、2月のトヨタ車体体育館での直前合宿まで強化を重ね、2月8日にバンコク入りしました。

私たちの今大会の目標はもちろん優勝しアジア王者となることでしたが、最低限の目標として3位以内に入り2005年チュニジア大会に続く2大会連続の世界選手権大会出場権を獲得するということが設定されていました。今大会には10カ国が参加し、各5チームのA、B2組によるリーグ戦を予選ラウンドとし、それぞれ上位2チームがトーナメントである本戦ラウンドに進出。準決勝戦ではA組1位とB組2位、B組1位とA組2位がそれぞれ対戦し、勝者同士が決勝戦を、敗者同士が3位決定戦を行うというものでした。

私たち日本はイラン、中国、カタール、サウジアラビアと同じB組。2月10日に突如として同じB組のサウジアラビアが大会への不参加を表明したものの、その他には大きなトラブルもなく2月12日に無事大会は開幕しました。

日本の初戦の相手はイランでした。前半からイランのフィジカルを活かした強引な攻撃に対して退場者を多く出した日本は自分たちのリズムには乗り切れないものの12－11と1点リードして前半を終えました。

このままいけば勝利できるという自信を持ってむかえた後半でしたが、前半から多少おかしいと感じていたジャッジがさらに酷いものとなりました。コートサイドのラインクロスを何度もとられ、点差を詰めるたびに退場者が出されるといった状況に徐々に集中力を削がれた日本は大切な初戦を25－28で落としてしまいました。今考えればこの敗戦が大会を通じて私たちに影を落とし、結果的に世界選手権への出場権を獲得することが出来なかった大きな要因となったように思います。

2戦目の中国との試合では持ち味であるスピードハンドボールを展開し38－20と大差での勝利を収めることが出来たものの、準決勝進出のかかったカタールとの試合では得失点差の関係で2点差以上での勝利が求められたことによる重圧もあったのか大切な場面でのミスが続き、最後まで日本のリズムで戦うことなく30－34で敗れ、世界選手権への出場権を獲得することが出来ませんでした。優勝はおろか最低限の目標であった世界選手権の出場権を獲得することも出来ずにチームは消沈しましたが、監督、コーチを中心に今後を見据え5－6位決定戦に気持ちを切り替え、チーム一丸となりバーレーンに勝利し、大会を締めくくれたのが今後への財産となったのではないかと思います。

最後になりますが、今大会に参加するにあたりご尽力いただきました関係各位の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

▼予選リーグ（2月12日）

イラン　28（11-12, 17-13）25　日　本

【戦評】立ち上がりイランに３－２－１ディフェンスを崩され０－３とリードされる。その後、坪根のファインセーブから豊田のサイド、宮﨑の連続得点でイランを逆転しペースを掴みかけた日本だが、退場者が多くイランを突き放せないまま12－11で前半を終了。

後半立ち上がり松林のポストシュートで２点差にするものの、またもや退場から同点に追いつかれてしまう。その後は一進一退の攻防が続いたが、20分過ぎ微妙な判定もありリズムを崩した日本はついに逆転を許す。２点ビハインドのまま終盤日本はマンツーマンディフェンスでボールを奪いに行くが、逆にイランに得点され万事休す。25－28で初戦を落としてしまう。

退場者と、オフェンスでのミスが響いた敗戦であった。

〔得点者〕宮﨑9、中川4、豊田3、松林・猪妻・東（あずま）2、東（ひがし）・永島・羽賀1

▼予選リーグ（2月15日）

日　本　38（19-12, 19-8）20　中　国

【戦評】前半10分まで日本は速攻、クイックスタートで得点、中国はロングシュートで得点と互角の展開であったがGK高木の好セーブからディフェンスのリズムを掴んだ日本は宮﨑、豊田、松林が速攻に飛び出しリードする。その後も田場のステップ、中川のミドルと効果的に得点を重ねていく日本に対し、中国は単調な攻撃が続きミスを繰り返す。その隙に途中出場の末松のステップ、豊田ー猪妻のスカイプレーと完全に流れをつかんだ日本は前半を19－12で終了。

後半に入っても日本の勢いは止まらず坪根の好セーブから永島の速攻、東（ひがし）香川のミドルと点差を広げていく。20分過ぎからは羽賀を入れた６－０ディフェンスで中国の攻撃を封じ込め、終わってみれば38－20と大差での勝利となった。

この試合、松井ジャパンが目指すスピードハンドボールが結果となって現れた試合であった。

〔得点者〕宮﨑・豊田9、中川4、田場3、松林・末松・東（ひがし）・猪妻・東（あずま）・香川2、永島1

▼予選リーグ（2月17日）

カタール　34（20-15, 14-15）30　日　本

【戦評】立ち上がりカタールはサイドシュートに、日本はクイックスタートから松林、宮﨑らが得点を重ね互角の展開。前半中盤、日本の３－２－１ディフェンスを相手エースに突破されリードを許す。ディフェンスシステムを６－０に変更するが、カタールの攻撃を食い止めることができず15－20で前半終了。

後半、猪妻のサイドシュートで点差をつめに行くが、オフェンスでのミスからカタールに速攻を決められリード広げられてしまう。日本も末松のステップ、豊田、猪妻の連続得点と点差を詰めに行くがカタールも得点差のゆとりから確実に得点を重ねていく。終盤逆転を狙いに行く日本はオールコートマンツーマンで勝利への執念をみせるが最後まで点差をつめることはできなかった。

この結果日本はＢグループ３位になり準決勝進出できず、世界選手権の出場権を逃し、20日に行われる５－６位決定戦に回ることになった。

〔得点者〕宮﨑・豊田・猪妻6、松林4、中川3、末松・田場2、東（ひがし）1

◆予選リーグ順位

【Ａグループ】①クウェート（4勝）②韓国（3勝1敗）③バーレーン（2勝2敗）④ヨルダン（1勝3敗）⑤タイ（4敗）

【Ｂグループ】①カタール（3勝）②イラン（2勝1敗）③日本（1勝2敗）④中国（3敗）

▼準決勝（2月19日）

クウェート　27（16-13, 11-10）23　イ　ラ　ン

韓　　国　29（13-10, 16-16）26　カタール

※クウェートと韓国は、来年の男子世界選手権への出場権獲得

▼７位－８位決定戦（2月20日）

ヨルダン　28（12-11, 16-14）25　中　　国

▼５位－６位決定戦（2月20日）

日　本　37（18-16, 19-16）32　バーレーン

【戦評】日本は立ち上がりから田場のカットイン、松林のミドルなど気迫のこもったプレーで得点するが、バーレーンもクイックスタートやカットインで得点を重ね、15分までは互角の展開。中盤以降ディフェンスを３－２－１から６－０に変え相手のオフェンスリズムを崩し、２点リードで折り返す。

後半も６－０ディフェンスが機能しリズムを掴んだ日本は、豊田、宮﨑の速攻、中川のステップでリードを広げ、さらには今大会初出場の前田のロング、村上のサイドが決まり勢いを増す。終盤も守っては永島、羽賀のディフェンス、高木のファインセーブでバーレーンのオフェンスを封じ37－32で勝利し、今大会５位で幕を閉じた。

ベストセブン賞に宮﨑大輔が選出された。

〔得点者〕豊田11、田場7、宮﨑6、松林・東（ひがし）3、中川・前田2、猪妻・東（あずま）・村上1

▼３位－４位決定戦（2月21日）

カタール　21（10-10, 11-10）20　イ　ラ　ン

※カタールは、来年の男子世界選手権への出場権獲得

▼決勝（2月21日）

クウェート　33（16-14, 17-16）30　韓　　国

asics

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
NEW THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm
● 2月上旬新発売



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
NEW THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm
● 2月上旬新発売



JAPAN
JOCオフィシャル
スポーツ用品パートナー

株式会社アシックス

平成18年度 事業計画

平成18年4月1日　（財）日本ハンドボール協会

1．普及指導に関する事業

≪普及関係≫

【基本方針】

1. 普及委員会
　①普及プロジェクト21推進会議の設置
　・ブロック会議
　　指導者ネットワークの構築、少年チームの実態把握、指導者育成
　②公認指導者体系の整備
　③普及施策の検討
　・U－15対策会議
　・地区大会・交流会の開催
　・異種目スポーツとの連携事業
2. 小学生専門委員会
　①小学生を中心としたジュニアチームの育成
　・市町村協会でのスポーツ教室、スポーツクラブの育成
　・郡市町村ハンドボール協会の設立促進
　・チーム登録の徹底
3. 学校体育ハンドボール検討専門委員会
　①指導要領対策
　②小学校における教科体育ハンドボール授業の実践推進
　③小・中・高の教科体育における一貫指導体系の確立
4. 中学生専門委員会
　①チーム登録の徹底
　②指導者養成、チーム育成事業の充実
　③中学生大会の充実
5. 生涯ハンドボール体系の確立
　①ビーチハンドボールの普及
　・全国大会の開催
　②マスターズハンドボールの普及
　③車椅子ハンドボール等の支援
6. 女性委員会（プロジェクト）
　①女性指導者の実態把握、関係機関への参加促進。
　②「第4回世界女性スポーツ会議」（JOC、熊本市、JWS共催／熊本）出席

【重点施策】

1. 小学生チームの運営研究
　・小学生専門委員会を中心としてスポーツ教室、クラブチーム、ブロック・都道府県における小学生チームの組織化
　・ブロック大会の充実
　・大会運営方法の検討
2. 小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領改訂対策
　・実践研究発表会の充実
　・研究指定校制度の継続（第2期〈平成16,17年度〉10校指定、第3期〈平成17,18年度〉8校指定)、報告書のまとめ
　・発育発達に応じた指導マニュアルの作成
3. 中学生チームの普及と活性化
　・全国中学生大会の実施
　・（財）日本中学校体育連盟との連携
　・NTSとの連携
4. 生涯ハンドボール体系への基盤整備
　・少年スポーツ教室・クラブの充実・マスターズ大会の充実
5. 女性指導者への情報提供のためのホームページ開設
　・アンケート結果の報告。女性指導者の抱える問題点の解決情報を提供。

≪指導関係≫

【基本方針】

1. 指導者の育成
　①指導組織の整備
　②都道府県における日本協会公認J級指導員及び（財）日本体育協会公認ハンドボール指導員の養成
　③コーチレフェリーシンポジウムの開催
　④大学における（財）日本体育協会公認ハンドボールコーチ専門科目認定コースの設置について
　⑤講習会講師の育成と組織整備
2. 公認指導者の義務づけについて
3. 海外派遣による研修と情報収集
4. 技術・指導情報の広報
5. NTSとの連携

【重点施策】

1. 日本協会公認J級指導員養成、（財）日本体育協会公認ハンドボール指導員養成講習会の実施
　・U-19までの指導体系の確立
2. コーチシンポジウムの開催
　・上級指導者養成
3. 公認指導者組織の整備
　・各ブロック・都道府県における研修体系の確立
4. NTSとの連携

2．競技運営に関する事業

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる。
2. 大会運営、競技運営の組織化を具体化する。
3. 大会システムの再編を図る。
4. より良い競技用具を使用し、最高のプレーを目指し、競技用具の改良と検定にあたる。
5. 国民体育大会の活性化、簡素化、効率化の推進を図る。
6. 登録業務の迅速適正処理を図る。

【重点施策】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の運営にあたり、主管団体との調整を図った組織的運営にあたる。
2. 競技役員の資質向上を目指し、養成を図るとともに、競技運営マニュアルの改訂を図り、共通理解を深める。
3. 用具について全国的に調査をし、改良点などについて製造業者と懇談をする。
また、証紙、検定証、証布が適正に貼付されているか、抜き打ち検査を実施する。
4. 日本体育協会と連携を保ち、国民体育大会に関する諸問題に迅速に対応する。

3．国際に関する事業

【基本方針】

1. 世界大会出場時の支援（連絡・交渉・情報収集など）
2. 国際ハンドボール連盟への貢献
3. アジアハンドボール連盟への貢献
4. 東アジアハンドボール連盟への支援

【重点施策】

1. （財）日本ハンドボール協会の国際的地位向上
　・IHFの役員、委員となる環境を整えるため、IHF開催の大会、会議等に国際委員を派遣（年間1回又は1名）する
　・AHF・EAHFの役員、委員としてAHF・EAHF開催の大会、会議等に国際委員を派遣（年間1回又は1名）する
　・国際会議・大会等で各国代表等と交流し、日本に対する理解を深める
2. 外国の情報を収集
　・試合ビデオなどの、各国情報を収集する
　・国・地域などで開催される大会などの情報を入手する
　・西欧・東欧・北欧・アフリカ・中近東・東アジアの情報収集のための拠点（JICA、現地日本人会との連携）を作る
3. 東アジア地区の連携強化
　・競技会実施のための支援
　・コーチ・レフェリー研修会等の支援
4. 国際大会、海外交流の支援
　・国際大会出場チーム、海外派遣選手の支援
　・国際会議、研修会等の派遣役員の支援

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1. 審判員の資質の向上
　北京オリンピックへの出場を目指す競技力向上と同様に、トップレフェリーの審判技術の向上を目指す。そのために強

化部の協力を得、NTS 講習会時にトップレフェリーの参加を促す。

IHF のヤングレフェリープロジェクトの日本版をつくり、ヤングレフェリーを育成し、レフェリー全体のレベルアップを目指す。

2. 競技規則運用の精度を高める

8 月 1 日施行の新ルールの伝達事項を徹底するため、全国審判長会議を開催し、各地区講習会の充実を図り、運用面での問題を吸い上げ、各種大会で支障のない状態を作る。

3. 審判員の評価活動

審判員審査指導委員の評価活動が充実できるように各種大会に派遣する。評価に各大会審判長、副審判長にも協力して貰う。

【重点施策】

1. 視聴覚教材の充実

昨年度から活動している視聴覚委員会を充実させ、指導ビデオを作成、資格に訴える講習会の充実を図る。そのために視聴覚委員会のスタッフを増やす。

2. 審判評価の充実

現在、高校総体と全日本総合選手権で審判評価をしているが、実業団、インカレ等他の全国大会へも評価が出来るように審査員を派遣し、評価の回数を増やし、指導力を高める。

3. 公認レフェリーの年齢基準を下げる

現在の公認レフェリーの年齢制限 18 歳から 16 歳に変更し、14 歳からヤングレフェリー（仮称）として審判活動が出来るように制度を変えることを考える。14 歳から活動を認め、優秀な国際審判員を望んでいるヤングレフェリーには 16 歳で B 級が取得できる道をつくる。

4. 継続的行事の実施

都道府県協会認定の D 級、ブロック協会認定の C 級、日本協会認定の A・B 級審判審査、審判員評価、JHA レフェリーコース、審判部合同会議のあり方を充実させ、審判部運営の充実を図る。

5. 競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

セクションを越えた協力体制で北京オリンピック出場

北京オリンピック出場のための強化施策立案と同時に、日本ハンドボール協会の強化に関して「構造改革」を実施する。したがって、NTS をシステムとした「発掘・育成・強化・指導」について、競技者育成技術委員会を調整機関として、各委員会とセクションを越えた協力体制をとって、将来にわたりオリンピック・世界選手権に出場できる体制を構築していく。

【重点施策】

1. 北京オリンピック出場のための代表チーム強化施策
   - 国際試合の実施
   - 外国人コーチ招聘による強化指導継続
2. 少数精鋭＆重点強化体制確立
   - 強化合宿参加人数を少数とし重点的に強化する。
3. 年齢カテゴリー別の体制確立
   - NTS と連携して各カテゴリーの年齢別代表チームを少数精鋭メンバーで構成し、強化合宿回数を増加する。
   - ナショナルスタッフチームのレベルアップ。
4. エリートスタッフ養成
   - 将来の代表チームスタッフ・テクニカルスタッフ・トップレフェリーを各委員会と連携して、重点的に育成していく。
5. 日本リーグチームとの連携強化
   - 日本リーグチームのコーチを育成していくことで、日常の強化を図り北京を目指す。
   - 中期計画検討プロジェクトにおいて、将来のあり方等について検討する
6. 医事・情報・科学委員会のサポート
   - 医事専門委員会は、ドクターおよびトレーナー派遣とドーピング検査を実施する。
   - 情報科学専門委員会は、各種の分析研究を行い代表チームのサポート等を実施する。
7. 収益事業の展開
   - 代表チームを柱とした収益事業を展開し、強化費の確保を実施する。

《選手育英事業》

【基本方針】

日本を代表するチーム、選手が世界で活躍し、オリンピックに出場できる強化策としての育英資金を制定し、チーム、選手個々の強化を図る。

【重点施策】

1. U 23 以下の強化指定選手の育英資金
   ①海外留学費の支援
   ②個人負担の削減
   ③海外遠征費の支援
2. 2006 年度 2000 万円の予算化
   180 万円× 8 名（男女）、1 年間の生活費（15 万円／月）※交通費自己負担
3. 資金の確保
   - 日本代表チームのユニホームの活用
   - スポンサーとの契約
   - 日本リーグチームと代表チームとの契約（義務制とし大会毎に順送り）
   - 個人とスポンサーとの契約
   - 男女リーグ企業への依頼（2006 年度に予算化依頼　50 万円× 17 チーム）

6. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌を通じ、日本協会全体の情報を共有化し、全国のハンドボール関係者の意識統一を図り、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】

1. ナショナル情報・協会便り・理事会報告・国際情勢・各委員会・各連盟・NTS 情報・IHF ニュース・企画記事他を掲載する。
2. インターネット情報との連携を図り、記事を掲載する。
3. 年 10 回の発行とする。
4.「機関誌のあり方」を検討する。

7. 企画・広報に関する事業

《企画事業》

【基本方針】

1.「プロジェクト 21」の推進を行う。
2. 中・長期スケジュールに基づく企画立案を行う。
3. 北京オリンピック出場を踏まえた取り組みを企画する。
4. 協会運営の改革を検討する。

【重点施策】

1.「プロジェクト 21」の具体的推進。
2. 中・長期スケジュールに基づくナショナル強化・競技力向上・普及・国際行事等の調整・立案を行う。
3. 北京オリンピックにむけての具体案の策定と実行。
4. 協会運営の改革に取り組む。

《広報事業》

【基本方針】

1. ハンドボール情報の発信の拡大を図る。
2. マスコミとの交流の拡大を図る。
3. 協会広報システムを構築する。
4. インターネット情報の充実・拡大を図る。
5. アジア大会、世界選手権、北京オリンピックに向けたナショナルチームの PR を図る。
6.「がんばれ 10 万人会」の徹底を図る。

【重点施策】

1. 年間活動計画の作成を行い、実施する。
2. 発信媒体の拡大に伴う対応
   - 新聞・テレビ（地上波・BS・ケーブル）・雑誌・インターネット
3. ホームページの充実を行う。
4. マスコミとの定期懇談会を実施する。
   - 東京記者クラブとの懇談会
   - NHK との懇談
5. 広報システムの構築に伴う協会内組織の充実（担当者の複数化・役割分担)。
6. アジア大会、世界選手権、北京オリンピックに向けたナショナルチーム露出を行う。
   - 記者発表・記者会見
   - 新聞・テレビ・雑誌・ホームページ
7. ホームページ情報の内容充実を計る。
   （機関誌委員会・インターネット委員会・

各マスコミとの連携）

《インターネット》

【基本方針】

1.日本協会より発信すべきハンドボールの情報をインターネットを通じて、一般の愛好者へタイムリーに発信する。
2.インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化、スピードアップを図る。
3.新たな情報発信・円滑な運用のための体制作りを確立する。

【重点施策】

1.日本協会ホームページの充実
 ・試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実
 ・新たな情報発信方法の検討と試行
 ・日本協会の広報活動としてのホームページ活用
2.ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
 ・より良いシステムの検討、人材の補強等
3.外注化による作業の効率化、情報発信のスピードアップ

8.財務・会計に関する事業

【基本方針】

平成18年度の日本ハンドボール協会の財政状況を取り巻く環境は、経済的にも社会的にもきびしい状況にあり、平成17年度と同様に予算編成にあたっては縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態にある。

特に、支出面ではこれまでの事業内容をよく検討し、投資効果と費用対効果を充分に精査し効率の良い運営を推進していく。また、収入面については協会の事業の中でも特化すべき強化・普及の諸事業の円滑な推進のため、マーケティング委員会を中心に積極的な協賛活動の展開と、検定事業等の再検討を進める。さらには、北京オリンピック出場キャンペーンを推進し、強化財源の一部を確保すると共に、広報委員会などとの連携で、オリンピック予選に向けてのムードの醸成をはかって行く。

会計基準変更に準拠するための規程等の整備を行う。

【重点施策】

1.各種事業内容を検証し、投資効果の精査とその事業の差別化を図る。
2.競技運営委員会・マーケティング委員会と連携し検定事業の再検討を含め、強化事業の財源確保のため各種の協賛活動を実施する。
3.北京オリンピック出場キャンペーンを推進し、強化財源一部の確保を目指す。
4.会計基準に準拠した規程等の整備。

9.日本リーグに関する事業

【基本方針】

日本リーグを継続・発展する。
 ・日本リーグ機構の中期ビジョンを検討する。
 ・地域と共に発展する日本リーグを目指す。
 ・ナショナルチームの強化支援を行う。
 ・普及活動への連携支援を行う。
 ・企業とパートナーシップを図る。
 ・ゼネラルマネージャーの育成を図る。

【重点施策】

1.日本リーグ中期検討委員会を設置し、改革を進める。
2.新しいリーグの在り方に挑戦する。
 ・日本リーグのシステム改革を行う（男子リーグ・女子リーグの在り方・変革）。
 ・チームにゼネラルマネージャーを設置し、運営を開始する。
 ・運営組織を簡素化する。
 ・マーケティングに取り組み、成果を上げる。
 ・リーグ機構の財政の充実を図る。
 ・各開催試合のプロの興業化に取り組む。
3.メディア対策を継続・発展させる。
4.第31回大会を男女とも1部リーグで行う。
5.観客動員を図り、各開催試合毎の独立採算制に取り組む。
6.第3地域での試合開催を拡大する。
7.国際競技力アップに協力する。（ナショナルチーム強化支援・NTSへの協力・支援）
8.審判技術の向上に取り組む。
9.チャレンジリーグ・オールスター戦の充実を図る。
10.東アジアクラブ選手権大会を日本で開催する。
11.トップリーグ連携機構の一員として活動し、連携を強化するとともにリーグの充実に役立てる。

10.総務に関する事業

【基本方針】

近年、日本ハンドボール協会の事業は社会情勢と、スポーツを取り巻く環境の変化にともない、多岐にわたる活動を余儀なくされている。当然、活動の執行部門である事務局には専門性・正確性・迅速性等が要求され、仕事量は増加の一途にある。

この現況から今年度は、引き続き業務の効率化を積極的に推進し、事務局の多能化を実現していく。

さらに戦力の強化を図るため、人材の効果的再配置と投資を検討する。また、事務局については継続的に取り組み、諸会議の円滑な運営と会議のあり方についても再考していく。

また、環境問題がスポーツ界でもクローズアップされており、大会などを通じ今後環境保全の啓蒙活動を行ってゆく。

さらに、規程集の改訂・整備と規程の階層化を目指していく。

【重点施策】

1.事務局の多能化
2.事務局経費の5％削減
3.諸会議の再検討
4.協会規程の修正と発行
5.環境保全の啓蒙・実践活動
6.個人情報保護法の遵守

12.マーケティングに関する事業

【基本方針】

北京オリンピック出場を目指してプロジェクト21が発足された。このプロジェクトに積極的に協力体制を取りながら併せて企画、広報、競技、強化とも連携を図り、財源の確保とPR／広報など媒体露出を中心にハンドボール価値創造を作り上げてゆくこと、そしてハンドボール競技を含めてコンテンツをハンドボール協会がデータベースとして管理して、スポンサー、ファン、観客、競技者に販売していくことに邁進する。

【重点施策】

1.従来の協賛企業の再フォロー活動
2.プロジェクト21と共同活動による協賛企業の開拓推進
3.オリジナルグッズ委託販売の推進
4.JOCオフィシャルパートナーシップタイアップの推進と肖像権規則等整備
5.日本協会主催大会開催に伴い権料の見直しとシステム構築
6.頑張れ全日本・北京出場キャンペーン
7.日本ハンドボール協会PRパンフレット作成（協会方針、方向性、全日本、強化他）
8.マーケティング委員会と広報委員会の明確なる連動と協同によりハンドボールコンテンツの確立へ向けてのロードマップ作り。

11.『がんばれハンドボール10万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「がんばれハンドボール10万人会」サポート会の規約改正により、サポート会の拡大を推進する。

日本協会と都道府県協会と連携し、サポート会の組織化を図る。

【重点施策】

1.都道府県協会サポート会を全国組織にし、本協会会員を10万人にする。
2.会員への情報・サービスを拡大する。
3.日本代表選手の家族、OB、OGの組織を作り、サポート会グランド会員への入会を促進する。

平成18年（2006年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第3回東アジアクラブ選手権（男女）	4/14（金）- 4/16（日）	日本・京都	京都市体育館 他
	第8回全日本ビーチハンドボール選手権大会	4/29（土）- 4/30（日）	千葉県・南房総市富浦町	富浦町原岡海岸
5月	西日本学生選手権大会	5/24（水）- 5/28（日）	岡山県・岡山市、総社市	岡山県体育館（5/24-26）、きびじアリーナ（5/27, 28）
6月	※第2回アジア男子ユース（U-19）選手権（WC2007予選）	6/25（日）- 7/1（土）	イラン・テヘラン	男子ユース（U-19）
7月	第26回全国クラブ選手権大会・西	7/15（土）、7/16（日）	岐阜県・岐阜市	岐阜アリーナ（2面）
	第26回全国クラブ選手権大会・東	7/28（金）- 7/30（日）	福島県・本宮町	本宮町総合体育館・本宮体育館・本宮高等学校体育館
	※世界学生選手権大会男子第18回・女子第6回	7/1（土）- 7/9（日）	ポーランド・グダニスク	学生
	※第11回女子アジア選手権（WC2007予選）	7/1（土）- 7/7（金）	中国・広州	女子ナショナル
	高松宮記念杯第47回全日本実業団選手権大会	7/26（水）- 7/30（日）	佐賀県	
	第19回全国小学生大会	7/28（木）- 7/30（日）予定	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、京都府立田辺高等学校体育館
8月	NTSブロックトレーニング	7月下旬 - 8月下旬	各ブロック	
	高松宮記念杯第57回全日本高校選手権大会	8/2（水）- 8/7（月）	大阪府・大阪市／堺市	堺市家原大池体育館2面、堺市金岡公園体育館、堺市立大浜体育館、堺市立初芝体育館、大阪市立住吉スポーツセンター
	第33回全国高等専門学校選手権大会	8/5（土）、8/6（日）	兵庫県・神戸市	神戸グリーンアリーナ
	第11回ジャパンオープントーナメント（男子）（第62回秋田わか杉国体リハーサル大会）	8/9（水）- 8/12（土）	秋田県・湯沢市	湯沢市総合体育館、湯沢高等学校体育館、湯沢雄勝広域市町村圏組合総合体育館
	第11回ジャパンオープントーナメント（女子）（第62回秋田わか杉国体リハーサル大会）	8/9（水）- 8/11（金）	秋田県・大仙市	大仙市大曲体育館、県立大曲農業高校体育館
	第14回全日本マスターズ大会	8/11（金）- 8/13（日）予定	愛知県・豊橋市	豊橋市総合体育館、愛知県立豊橋西高等学校
	※第1回女子ユース（U-18）世界選手権大会	8/11（金）- 8/20（日）	カナダ・シャーブルック	女子ユース（U-18）、レオポルドードロレ スポーツパレス
	東日本学生選手権大会	8/16（水）- 8/18（金）	新潟県・柏崎市	柏崎市総合体育館
	第35回全国中学校大会	8/18（金）- 8/20（日）	香川県・高松市、香川町	高松市総合体育館、高松市市民文化センター体育館、香川町総合体育館
	※第14回韓中日ジュニア交流大会	8/25（金）- 8/27（日）	韓国・大邱広域市	男女高校生
	※第10回日韓スポーツ交流（派遣／男子）			男子U-16
9月	※第11回ヒロシマ国際大会　兼　第10回男子ジュニア（U-21）アジア選手権（WC2007予選）	8/22（火）- 9/1（金）	日本・広島市	男子ジュニア（U-21）
	第31回日本リーグ	9/2（土）開幕	各地	
	※第10回日韓スポーツ交流（派遣／女子）			女子U-16
10月	※第10回日韓スポーツ交流（受入／女子）			女子U-16
	第61回国民体育大会	10/6（金）- 10/10（火）	兵庫県・朝来市、養父市、三田市、高砂市、加古川市	朝来市和田山体育センター、養父市立八鹿総合体育館、三田市立駒ヶ谷運動公園体育館、三田市立城山公園体育館、高砂市総合体育館、加古川市立総合体育館
11月	高松宮記念杯 男子49回女子42回全日本学生選手権	11/16（木）-11/20（月）	愛知県・名古屋市	中村スポーツセンター他
12月	※第15回アジア大会	12/1（金）- 12/15（金）	カタール・ドーハ	男女ナショナル
	第58回全日本総合選手権大会	12/20（水）-12/24（日）	愛知県・名古屋市	
	第15回JOCジュニアオリンピックカップ	12月下旬	大阪府・堺市	堺市家原大池体育館・金岡体育館
	NTSセンタートレーニング	1/5（金）- 1/8（月）	愛知県・春日井市	中部大学
1月	※第20回男子世界選手権	1/21（月）- 2/4（月）	ドイツ・ケルン等12都市	男子ナショナル（不出場）
2月	全日本実業団チャレンジ2007	2/9（金）- 2/11（日）予定	高知県・高知市	高知市東部総合運動場・くろしおアリーナ
3月	第31回日本リーグプレーオフ	3/17（土）- 3/18（日）	東京都	駒沢体育館
	第30回全国高校選抜大会	3/25（日）- 3/30（金）	徳島県・徳島市	徳島市立体育館、徳島文理大学体育館、鳴戸県民体育館2面、松茂町総合体育館、北島北公園総合体育館
	第2回春の全国中学生選手権大会	3/26（月）- 3/29（木）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館

※は国際大会

～すばらしい応援歌企画～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

なんともうれしい話題に触れることが出来た。ハンドボールの応援歌をつくろうという企画。それもサポーターから「言葉」「フレーズ」などを募集して歌詞をまとめると言うことだ。

それをつくろうという人がまた気に入った。私は今、広島に住んでいるが、企画をしたミュージシャンが広島県人と知っていっそう親近感を覚えた。

林芙美子の小説で知られる尾道で高校時代を過ごしたという。猛練習で知られる行里富保監督（故人）に鍛えられ、日本ジュニア代表にまで成長したキャリアの持ち主。しかし、残念ながら腰痛のため競技続行を断念せざるを得なかったという。そうした経歴からしても、ハンドボールの「心」を十分に理解している点が、またうれしいし、応援歌を思いついたのではなかろうか。

ハンドボール界にそうした応援歌があるかどうか詳しくは知らないが、ハンドボールを愛する人たちが会場で、練習で、またいろいろなイベントで一緒に歌えるものが出来ると言うことは、新しい応援スタイルが生まれる大きな期待も出来る。

Ｊリーグでは各クラブがオフィシャルソングをつくっている。試合会場で選手の背中を押す大きな役割にもなっている。今シーズンを前に「優勝」というビッグな目標を掲げたサンフレッチェ広島が、新しくオフィシャル・イメージソングをつくった。名づけて「光の射すほうへ」—。それを歌うミュージシャンが広島生まれ、広島育ちということも、地域密着を掲げるＪリーグの基本理念にぴったりだ。快適なテンポで、若いサポーターにはすでにかなり受け入れられているし、コーラスで参加した選手たちもすっかり気に入り、イベントでは大声でノリノリといったところである。

どの競技でもそうだが、試合会場が盛り上がるためには、選手とサポーターがひとつになってこそである。いくら選手がすばらしいプレーを連発しても、ファンの歓声が少なければ、盛り上がりに欠ける。今回の応援歌企画はそういった意味合いからも、大いに期待できるのではなかろうか。

試合会場で応援歌の大合唱—そうしたシーンを想像しただけでもワクワクしてくるではないか。

今度誕生する予定のハンドボール応援歌がどんなものに仕上がるか楽しみではあるが、きっとすばらしい応援歌になることだろう。

それは作詞者がハンドボールの魅力を知り尽くしていることが第一である。自分の若き日を振り返りながら、その経験を歌詞に織り込むことが十分に可能だからである。

すごい迫力プレーなどをどのように表現してくれるのか。また、サッカーのように、サポーターと選手が応援歌とリンクして一体となれることは、少々のイベントを企画しても追いつくものではあるまい。アップテンポの曲がつくのか。恐らく親しみやすいものが完成すると期待しているが、欲を言えば早くその応援歌に触れたい思いが強い。

この応援歌によって試合前から会場に熱気が充満する—そうした雰囲気がつくれれば最高だ。

話は少しさかのぼるが、数年前に広島メイプルレッズがチームソングを企画したことがあった。「なんとしてもつくりたい」と関係者はかなり積極的な動きを見せたが、残念ながら実現しなかった。

応援歌が出来ると、各チームで「わが応援ソングをつくろう」という気運が出てくるかもしれない。今回のことがきっかけというか、刺激になってそうした流れが出来ればさらに喜ばしいことである。

今後の動きがどうなるか注目したいが、願わくば2006年度には試合会場に歌声が響き渡るようになってくれることを待ち望んでいる。

会場に詰め掛けたサポーターが大声で歌い、踊り、そして全体のオクターブが上がれば、すばらしい演出が展開されることになる。サポーターそれぞれが「フレーズ」を考え「さすがにすばらしい」と各界から注目を集める応援歌にしていければ万々歳だ。

悔しいが男子の世界選手権出場はならなかった。しかし、2008年北京オリンピック出場はどうしても勝ち取らなければならない。そのためにも力強いバックアップになる応援歌誕生にしたい。

立山アルミ

平成16年度
地球温暖化防止活動
環境大臣賞
受賞

自然換気システム「NAV-Window-21」は、各地の体育館・大空間施設で採用されています。

学校法人東北学院中学・高等学校

日本体育大学健志台キャンパス体操競技館

東京外国語大学屋内運動場

建物を呼吸させよう

風の道をつくり、自然換気をする建築は、世界的に見て、
確かなひとつの流れとなっています。
NAVウィンドウ21は、「風」という自然エネルギーを利用した、
爽やかで効率のよい自然換気を実現するシステムです。



自然換気システム商品シリーズ

NAV-Window-21

〈スウィンドウ／ウィンコン／キャブコン〉

「平成16年度地球温暖化防止活動環境大臣賞 受賞」について

当社が実施してきた10年間に亘る自然換気システムの開発への評価、また製造販売活動を通じ自然換気システムを採用いただいたビル建築が200件を超え、年間で13,000tのCO_2排出削減（森林面積で5,600ha≒皇居面積の約60倍相当）に貢献している点が評価されました。

立山アルミニウム工業株式会社
本社/〒933-8610 富山県高岡市早川70〈ビル建材事業部〉 TEL (0766) 20-3321
立山アルミ ホームページ http://www.tateyama.co.jp/


写真提供：スポーツイベント社

もっと高く！ 天空の支配者・宮﨑大輔物語 ❶

久保 弘毅 ハンドボールライター

宮﨑大輔がよく口にする言葉に「天井効果」がある。例えば箱の中にバッタを入れる。初めはバッタも飛び跳ねる。だが、しばらくするとバッタは飛ばなくなる。何度も天井に当たるうちに、飛び出せないことを学習してしまうからだ。そして箱から出されても飛ばなくなる。もし天井がもっと高ければ、バッタも力の限り飛び続ける。己の限界を決めつけて、自分の本能にふたをすることもないだろう。

バッタを例に出したが、「人間だって同じ」と宮﨑大輔は言う。

「だからいつも、僕は上のレベルに挑んできました。高いレベルにいればいるほど、自分の力は伸びるんです」

さらなる高みを目指し、挑戦を続ける宮﨑大輔。日本のハンドボール界を背負うエースの足跡をたどってみた。

子供の頃から負けず嫌い

1981年6月6日、宮﨑大輔は大分市で生まれた。姉の梨奈、妹の奈津子との3人兄弟。ラグビーをやっていた父、清治の血を引いたのか、幼い頃から運動神経はよかった。体は小さかったが、走るのは大の得意。幼稚園ではいつも先生に駆けっこで勝負を挑んでいた。

「もちろん先生も大人だから手加減していたと思います。でも僕は本気で『先生に勝ちたい』と思っていました」

この頃からすでに負けず嫌いだった。

ハンドボールと出会う前は、野球やサッカーに夢中だった。今でもフットサルで抜群の足さばきを見せる宮﨑大輔だが、特にサッカーとは少なからず因縁があった。

幼稚園の頃、父が体調を崩し入院した。宮﨑も見舞いに行く。しかし5、6歳の子供はすぐに退屈してしまう。親の体調がよくないとわかっていても、じっとしていられない。病院の駐車場でリフティングをしていた。

その様子を見ていたのが明治北小学校サッカー部の監督だった。明治北小のサッカー部は全国優勝するほどの強豪。その名門の監督から「小学生になったら、うちのサッカー部においで」と誘われた。

もちろん宮﨑もその気になった。しかし宮﨑は明野東小学校に進んだ。宮﨑家は明治北小の学区外だったのだ。しかも学区の境界線は、家からほんの2～3mの所にあった。もし境界線が少しずれていたら、宮﨑は明治北小に進み、本格的にサッカーに取り組んでいただろう。わずか2～3mの差でハンドボールに導かれたとも言える、人生の分岐点だった。

初めてハンドボールを知ったのは小学3年の時。引越しで明野北小学校に転校したばかりの時だった。遊び相手もいなくてゴロゴロしていると、姉の梨奈が声をかけた。

「あんたもハンドボールをやればいいじゃない」

すでにハンドボールを始めていた姉の後を追うように、明野北少年ハンドボール部に入る。初めのうちは練習にも出たり出なかったり。入ってすぐにレギュラーになったが、もうひとつ乗り気ではなかった。

本気でハンドボールと向き合いだしたのは4年生になってから。九州大会に出場して負けた悔しさがエネルギーになった。

「あの時、自分が1点も取れなくて負けました。幼いながらも、『これじゃいかんな』と真剣に思いました」

以来、目の色を変えて練習に取り組むようになる。練習では決まって上級生に勝負を挑んだ。上級生をフェイントで抜くのが一番の楽しみだった。上級生との練習試合に負けて、一人だけ泣いていたこともあった。「負けたら必ずやり返せ」という父の教えもあり、生来の負けず嫌いに磨きがかかった。

6年生の時には全国小学生大会に出場。決勝トーナメント1回戦で、優勝した当山小ハンドボールクラブに11－15で敗れた。本人の記憶によると、11点中10点を自分で決めたという。当時から宮﨑は飛び抜けた存在だった。だがこの時に、一人では勝てないことを痛感する。その後宮﨑は周りを生かすプレーを意識するようになった。

理にかなっていた食生活

宮﨑大輔の少年時代を語る上で、食生活の話は欠かせない。単なる遺伝だけでなく、理にかなった食生活が宮﨑大輔の肉体を作った。

少年時代の大好物は「いりこ」。だしを取るのに使われる、いわゆる煮干しである。おやつ代わりに毎日食べていた。

友達がポテトチップを食べるのを横目に、袋に入れたいりこをポリポリ齧る。おやつを買ってもらえなかった訳でもないのに、好んでいりこを食べていた。

納豆も好物のひとつだった。夜中に寝ぼけながらも納豆を食べたくなり、冷蔵庫を漁りだしたこともあった。納豆を見つけ、食べ始めたまではよかったが、途中でまた熟睡してしまった。翌朝目覚めると、冷蔵庫は開けっ放しで、顔には納豆がべったりと…。親に怒られたのは言うまでもない。

他にも色々好物はあるが、一番のお気に入りは卵焼き。それも母、まゆみが作った物に限るという。その母の作る卵焼きは、話を聞く限り、ごく普通のだし巻き卵のようだ。しかし未だに「他では卵焼きを食べる気がしない」と言うくらいだから、彼にとっての「おふくろの味」なのだろう。

良質のたんぱく質とカルシウムで丈夫な体に育ったが、今に至るまで骨折は多かった。そのほとんどが疲労骨折。

「大好きなハンドボールだから、つい、やり過ぎてしまうんですよ。オーバーワークになって、気がついたら疲労骨折になっていました」

175㎝の小さな体で飛び続けるために、これからもオーバーワークには気をつけてほしい。

踏みとどまった中学時代

明野中学に進んだ宮﨑大輔だったが、友達とつるんで、いわゆる「やんちゃ」をした時もあった。だが厳しかった父の教えもあって、一線を越えることはなかったという。

「とっさの場面で父の顔が頭をよぎって、『これはしたらいけない』って感じるんです。だから踏み外さなかったんだと思います」

父、清治には厳しくしつけられた。考えるより先に動いてしまうので、「一度考えてから行動しろ」と言われた。同様に「顔と目と口に悪い感情を出すな」とも言われた。「すぐに行動するのはハンドボール向きなんでしょうけど」と宮﨑は笑う。だが、茶目っ気がありながらも思慮深く、時に先輩をさりげなく立てる宮﨑大輔の受け答えには、間違いなく父の教えが生きている。

また中学時代に一度だけ、ハンドボールから心が離れた時期があった。その当時、漫画「スラムダンク」が大流行。バスケットボール人気が急激に高まった。宮﨑もバスケットボールに憧れ、ハンドボール部を辞めてしまう。

しかしバスケットボール部に入ろうとしても、顧問の先生が入部を許さない。何度願い出ても許可が下りない。バスケは諦めて他の部活に入ろうとしても、門前払いをくらうばかり。こうして半年ぐらい部活に入れず悶々とした後、ハンドボール部に戻った。

他の部活に入れなかったのには理由があった。顧問の亀井先生が職員会議で土下座しながら訴えたからだ。

「宮﨑大輔にはハンドボールしかないんです。他の部活に入ろうとしても、絶対許可しないでください」

亀井先生の必死の説得がなければ、ハンドボーラーとしての今はなかった。宮﨑がその話を聞いたのは大学に進学してから。当然宮﨑は驚いた。亀井先生がそこまで自分のことを思っていてくれたとは…。だから今も宮﨑は亀井先生に頭が上がらない。



写真提供：スポーツイベント社

紆余曲折はあったが、宮﨑はまたハンドボールにのめり込む。亀井先生から借りたヨーロッパのハンドボールのビデオに夢中になった。フランス代表として長年活躍したジャクソン・リシャーソンやアイスランドの選手の映像を、テープが擦り切れるまで見続けた。特に興味を持ったのはステップシュートだった。

「外国の選手のステップシュートって、肘から先だけでポーンと打つんです。でも軽く打っているように見えて、ボールはめちゃくちゃ速い。『えっ、なんで？』『自分も打ってみたい！』そんな思いで何度もビデオを見ました」

ビデオで見たプレーを自分の物にするため、何度も練習を繰り返した。

中学３年時は九州大会２回戦で神森中に敗退。全国中学生大会へは行けなかった。だが多くの人たちに支えられ、宮﨑大輔はハンドボールの道を踏み外さずに中学生活を終えた。

（次号へ続く）

NTS2005報告

NTSコーディネーター　栗山　雅倫

NTS2006のスタートにあたり

2005年度シーズンも終わり、2006年度がいよいよスタートいたしました。

昨年度1月に行われました、NTS2005センタートレーニングでは前号でお伝えした通り、スケジュールを一本化し、1月6日から9日までの間、U-15・U-18対象選手を一同に集め（U-15　6日・7日　U-18　7日・8日・9日）開催致しました。これは、今までにない指導スタッフの充実を図り、より多くのスタッフの目で選手をしっかり評価、判断をして行こうという考えの中から生まれたことであります。

センタートレーニング選手選考も、各カテゴリーの指導スタッフ、ナショナルスタッフチーム、NTSインストラクターが一同に集まる事により、選手の将来的な育成についても話し合われ、また、専門的な情報科学サポートチームによる、選手個々の基礎データ、体力測定データなどの数値的資料も参考にし、今年度の年代別強化指定選手の選出が行われております。

（年代別強化指定選手の発表は来月号にて掲載させていただきます）

今回のセンタートレーニングは、各ブロックから選び抜かれた選手が、真剣に指導者の話を聞きトライしていくこととしました。

指導者サイドも、世界と戦っていくための基本的スキルアップをテーマにトレーニングを展開いたしました。

また、トレーニング後に行われた知的トレーニングにおきましては、世界の舞台がどんなものか、世界で一番になる事の厳しさなども、今回は、JOCオリンピアンの武田美穂さん（アテネオリンピック、シンクロナイズドペア銀メダリスト）の世界トップクラスの話を聞く講習があり、心をときめかせ、自分の将来の夢とシンクロさせた選手も多かったと思います。

その選手の目の輝きに応えるためにも、私達指導者は選手が思い描いている夢に近づけていくために、このNTSで多くの指導者と意見交換し、より良い指導を目指し、指導者側としても学び、選手を育成し、世界と戦える、世界の舞台でメダルを獲る、最高の夢に向かって取り組んでいかなければと思います。

是非、今年度は選手と共に、各地で行われるブロックトレーニング、センタートレーニングに指導者の皆さんの参加をお願いしたいと思います。

今年度で7年目を迎えますNTSですが、ますます充実したシステム、トレーニングスタッフ、トレーニング内容を目指し、今年度も進んでまいりたいと思います。皆様からの一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

平成17年度　チーム数・選手数一覧表

（財）日本ハンドボール協会　2006/2/28 現在

	種別	一般L		一般A		大学		高専		高校		中学生		小学生･少年団		リージョナル		合計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	14	247	29	406	1	19	61	1,054	15	302	7	141	8	134	135	2,303
2	青森県	0	0	13	187	5	81	1	22	20	411	0	0	1	20	0	0	40	721
3	岩手県	0	0	8	120	5	71	1	22	40	790	33	772	3	91	23	333	113	2,199
4	宮城県	0	0	6	93	11	192	1	19	44	974	16	345	0	0	5	65	83	1,688
5	秋田県	0	0	7	95	2	28	1	17	12	250	6	105	0	0	0	0	28	495
6	山形県	0	0	6	94	2	23	0	0	18	391	4	54	0	0	0	0	30	562
7	福島県	0	0	7	94	3	36	0	0	42	732	30	754	4	62	1	12	87	1,690
8	茨城県	0	0	7	109	4	83	0	0	54	834	33	648	7	142	9	122	114	1,938
9	栃木県	0	0	3	49	3	55	0	0	18	331	13	310	2	55	3	39	42	839
10	群馬県	0	0	7	120	1	9	0	0	16	318	13	295	1	85	1	16	39	843
11	埼玉県	1	20	14	221	7	110	0	0	87	1,694	38	740	2	41	1	11	150	2,837
12	千葉県	0	0	9	145	9	160	0	0	60	934	28	335	5	86	7	88	118	1,748
13	東京都	1	22	14	240	45	798	2	36	145	2,644	61	694	3	52	49	850	320	5,336
14	神奈川県	0	0	13	214	12	233	0	0	145	1,589	76	1,220	5	59	13	174	264	3,489
15	山梨県	0	0	6	95	4	37	0	0	25	488	14	275	3	71	7	93	59	1,059
16	長野県	0	0	6	96	2	28	0	0	27	448	10	233	2	50	0	0	47	855
17	新潟県	0	0	5	70	4	66	1	21	12	239	2	24	2	40	4	49	30	509
18	富山県	0	0	9	145	3	40	1	23	26	461	32	656	12	238	6	78	89	1,641
19	石川県	1	24	9	142	3	53	1	18	22	402	21	538	1	19	7	90	65	1,286
20	福井県	1	13	5	72	2	31	1	11	20	396	14	335	3	45	8	95	54	998
21	静岡県	0	0	12	161	5	64	1	18	54	962	6	154	0	0	1	8	79	1,367
22	愛知県	5	105	11	206	26	449	1	25	236	4,866	175	4,016	13	0	0	0	467	9,667
23	三重県	1	16	9	137	3	33	1	17	41	670	30	362	3	46	0	0	88	1,281
24	岐阜県	0	0	15	225	3	46	1	26	47	988	51	1,080	7	271	1	7	125	2,643
25	滋賀県	0	0	7	109	3	44	0	0	22	490	11	259	0	0	1	14	44	916
26	京都府	0	0	9	92	15	215	1	16	39	673	24	498	19	409	14	124	121	2,027
27	大阪府	0	0	10	141	27	459	1	18	88	1,184	18	342	7	175	0	0	151	2,319
28	兵庫県	0	0	5	83	15	236	2	26	87	1,411	30	673	8	168	5	65	152	2,662
29	奈良県	0	0	4	67	7	92	1	16	29	429	20	341	5	59	0	0	66	1,004
30	和歌山県	0	0	5	77	2	26	1	18	20	315	13	279	1	48	7	77	49	840
31	鳥取県	0	0	3	44	1	14	1	21	16	303	6	118	0	0	1	38	28	538
32	島根県	0	0	2	25	1	16	1	32	11	183	3	26	0	0	0	0	18	282
33	岡山県	0	0	9	113	5	76	1	24	51	802	12	268	0	0	3	32	81	1,315
34	広島県	2	35	2	35	7	106	1	9	19	374	11	170	1	39	5	84	48	852
35	山口県	0	0	12	183	1	12	2	41	30	269	21	407	3	191	2	31	71	1,134
36	香川県	0	0	4	62	3	54	1	15	24	374	18	405	3	75	0	0	53	985
37	徳島県	0	0	2	47	4	53	1	14	12	219	2	34	0	0	0	0	21	367
38	愛媛県	0	0	7	115	5	88	0	0	31	739	6	153	1	0	1	6	51	1,101
39	高知県	0	0	4	51	2	28	1	21	12	158	8	128	0	0	6	61	33	447
40	福岡県	0	0	4	63	11	213	3	78	49	930	22	425	5	55	0	0	94	1,764
41	佐賀県	1	19	3	44	1	14	0	0	14	260	6	84	3	41	0	0	28	462
42	長崎県	0	0	8	118	2	26	1	35	29	644	14	228	3	56	0	0	57	1,107
43	熊本県	2	35	4	70	5	75	2	36	56	918	38	653	17	472	0	0	124	2,259
44	大分県	0	0	8	110	1	20	0	0	14	224	14	222	11	188	0	0	48	764
45	宮崎県	0	0	3	47	2	21	1	23	31	475	16	228	11	174	7	90	71	1,058
46	鹿児島県	1	19	6	76	3	37	1	19	30	557	15	392	3	47	3	30	62	1,177
47	沖縄県	0	0	8	126	5	105	1	17	71	1,521	54	1,517	23	442	18	273	180	4,001
合計		16	310	344	5,275	321	5,161	39	773	2,057	36,321	1,103	22,098	210	4,253	227	3,189	4, 317	77,380

ハンドボール競技・国際（IHF & AHF）関係行事への参加所見

IHF 医事委員（アジア大陸）、AHF 理事・医事委員長　西山 逸成


IHFオフィス前にて

はじめに；2004年にAHF理事・医事委員、そして2005年にIHF医事委員をそれぞれ4年間の委嘱を受けて以来の私の関係行事に関する次の報告を致します。

1．IHF（国際ハンドボール連盟）＝医事委員会
2．IHF＝第1回男子ユース世界選手権大会
3．AHF（アジアハンドボール連盟）＝理事会

行事	主要内容	今後の課題、他
1．IHF：第1回医事委員会 2005年6月10・11日 （バーゼル／スイス） 出席者； Dr Hassan Moustafa 会長 Mr Frank Birkefeld 事務局長 委員長 Dr Francois Gnamian 出席委員； Dr Issei Nishiyama（JPN） Prof Inge-Lis KANSTRUP（DEN） Prof Hans HOLDHAUS（AUT） Dr Andras TALLAY（HUN） Dr Samir Salim DAHER（BRA） 欠席委員； Dr Jose RODRIGUEZ. AYBAR（DOM） Dr Ridha MONKY（TUN） IHF 役員中の AHF 構成； KUW — COC, CCM, CPP, ACC（仲裁）ATT（裁定） KOR — PRC JPN — MC PAK — PRC	1．各委員の調査・研究内容の発表・討議 ①試合中の精神的、身体的障害数（継続）——— ＊傷害の予防・排除マニュアルの編集他 ②ドーピング違反選手数の減少策（継続）——— ③レフリーの身体能力の向上策（継続）——— ④各大陸、各国の医事委員会との連携（継続）——— ⑤マウスピースと口腔傷害の予防——— ⑥Face Mask の試作と使用 ⑦女子選手にみるスポーツ傷害 2．IHF／MC に対する提案 ①競技場内の外傷発生時の出血処置—感染症予防——— ②競技外ドーピング検査の恒常的実施——— ③ハンドボール医科学会議（各大陸セミナー） ＊IHF 理事会（ハンガリー）原則的合意——— 2006 パンアメリカン（サンパウロ／ブラジル） 2007 アジア（東京／日本） 2008 アフリカ（アビジァン／コートジボアール） 2009 オセアニア？東ヨーロッパ 3．2005年世界選手権大会時のドーピングコントロール担当委員の指名 ①第1回男子シニア世界選手権——— ②第14回女子ジュニア世界選手権——— ③第15回男子ジュニア世界選手権——— ④第15回女子世界選手権——— 4．アンチ・ドーピングの IHF 活動について 5．アンチ・ドーピング IHF 規則の改正・説明 WADA 設定・・・・2003年3月5日 IHF 改正・・・・・2005年6月10日	 継続 継続 継続 継続 継続要望 実施の徹底重視 WADA との連携 予算化の検討 （8回／5年間・医事セミナー、5大陸各所。経費負担；IHF・大陸） Nishiyama I. KANSTRUP Gnamian Gnamian
次回の IHF 医事委員会	2006年3月頃、サンパウロ／ブラジル ハンドボールシンポジュウム・医事委員会の実施	2006/4/25.26 ＊変更；Basel

行事	主要内容	今後の課題、他
2．IHF： 第1回男子ユース世界選手権大会 2005年8月3日～11日 （ドーハ／カタール） 参加国（10カ国）順位 ①セルビア・モンテネグロ（SCG） ②韓国（KOR） ③クロアチア（CRO） ④デンマーク（DEN） ⑤カタール（QAT） ⑥エジプト（EGY） ⑦アルゼンチン（ARG） ⑧イラン（IRI） ⑨チュジニア（TUN） ⑩モロッコ（MAR）	1．参考資料の保管 ①試合の Match Report を携行した。 ＊得点地点・時間・ゴール位置・反則、等 ②決勝トーナメントの VIDEO を記録し、Jr 関係スタッフに送付した。 2．得点王　韓国 NO.11Hyo-Won Eom； 決勝戦直後出発— U-20 男子世界選手権大会 3．本大会のゲーム分析詳細；参照 SPECIAL SUPPLEMENT VI TO THE WORLD HANDBALL MAGAZINE 3/2005 4．若手レフリーの育成（レフェリーミニコース） ①日時；8月1・2日、ドーハ ②育成数；若手8ペアー（チャイニーズ台北1） ③講師；Mr.Manfred PRAUSE（IHF/PRC） Mr.Dietrich SPATE（IHF/CCM） ④レフェリーテスト；シャトルラン、乳酸値、ジグザグ走、反応時間、閉眼片足立ち、垂直とび、他 Prof Hans Holdhause & Dr I Nishiyama	JHA の課題； 1.東アジア・日本からの参加 2.日本での若手レフェリー育成の促進 3.大会現地情報、資料の分析—情報分析班との連携化— 4、マニュアルを IHF/MC に依頼中 （IHF M/C）
3．AHF：理事会 2005年12月2日 （ドーハ／カタール） ＊ AHF 主要大会；2006年 第12回男子アジア選手権 （WC予選，2月12～21日バンコク） 第2回男子 U-19 アジア選手権（未定） 第9回女子 U-20 アジア選手権 （WC 予選，7月1～7日；カザフ） 第11回女子アジア選手権 （WC 予選，7月22～27日；中国） 第10回男子 U-21 アジア選手権 （WC予選，8月22～9月1日；日本） 第9回アジアクラブリーグ （9月9～20日；シリア） 第15回アジア大会 （12月1～15日；ドーハ）	1．会長以下21名；出席 会長（欠）　副会長（2/4）　理事長（出） 専務理事、財務理事、理事（3/5）　委員長（6/8） 2．議題内容； ①前回（2004年12月2日エジプト）会議確認 ② 2005年度会計・事業報告 ③ AHF 主要大会＊ ④次回 AHF 総会・理事会； 2006年11月29（水）・30日（木）Doha/QAT ⑤レフリー区分（案）；Dawud Tawakori Jr（u-18・19・20・21），Candidet, Continental & National ⑥競技規則の改正 ⑦アンチドーピング規則の大改正 WADA（世界アンチドーピング機構）（2003年3月） WADA 禁止物質リスト（2006年1月） IHF アンチドーピング規則（2005年5月） AHF アンチドーピング規則（2005年12月） 日本アンチドーピング規則（2006年3月）	西山理事　出席 AHF 理事構成； Kuwat................ 3 Iran...................... 2 Qatar.................... 1 India...................... 1 Bahren................ 1 Korea.................... 1 Thailand.............. 1 Saudi Arabia........1 Japan.................... 2 Jordan.................. 1 Malaysia.............. 1 Pakistan.............. 1 Lebanon.............. 1 Oman.................... 1 UAE...................... 1 Kazakh................ 1 Syria..................... 1

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」2月入会・継続会員

【山形】五島訓二　【群馬】永井永子、関口晴久　【東京】大塚文雄、石坂洋介　【神奈川】田村修治　【石川】寺垣俊彦
【三重】池辺健二　【岡山】直本ちあき　【広島】植木智大　【熊本】高木　弘　【鹿児島】田中浩之

【4月の行事予定】

【会議】
4月8日（土）　常務理事会（東京）

【大会】
4月14日（金）～16日（日）
第3回東アジアクラブ選手権大会（男女）（日本・京都）
4月29日（土）～30日（日）
第8回全日本ビーチハンドボール選手権大会
（千葉県・南房総市）

新刊書紹介：寄贈本から



ハンドボール名将列伝
「名門復活」ハンドボールにかけた熱き魂　（株）スポーツイベント編集部特別取材班　著
明星高等学校ハンドボール部前監督　鈴木亮一　発売元　グローバル教育出版

平成元年、明星高校ハンドボール部を率いた鈴木亮一は、インターハイ、国体の2冠を手中にし、悲願の全国制覇を達成した。
しかし、鈴木にとってここに至るまでの道程は決して順風満帆ではなかった。部員が集まらない時代もあった。戦力を整え「今年こそ」と臨んでも、準優勝に甘んじる時代もあった。
「かつての名門」というプレッシャーも鈴木を押しつぶすようにのりかかってくる。過去をすべて忘れ去り、投げだしたくもなった。
いったん朽ちて地に落ちた名門を復活させることは難しい。よほどの情熱と戦略がないと甦らせることは困難だ。
本書は、名門復活に人生を捧げた鈴木亮一の苦闘をつづったものである。
（広告文より転載）

HAND BALL CONTENTS Apr.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般·大学·高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般·大学·高校)・中学校

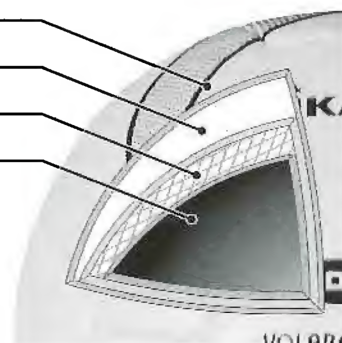
HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます



MIKASA
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ　〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2　TEL.082-237-5145　FAX.082-238-1252　www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六九号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可

平成十八年三月二十六日印刷　平成十八年四月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人　大西武三

定価　年間三三〇〇円